

山本 理 (やまもと さとる)



2026年度から当コース所属になりました。どうぞよろしくお願いいたします。

これまで、理科教材の編集者、公立小学校・私立中学校での理科教員、民間教育機関での生物基礎・生物講師…と、いくつかの教育関連機関に属してきました。現在はビオトープ管理士として、未就学児からお年寄りまで幅広い年代を対象とした自然観察会のスタッフとしても活動しています。

大学院修士課程までは植物の生態・進化を勉強していましたが、その後社会人として教育に関わる中で、「博物館と学校のよりよい関係って何だ?」といったことがじわじわ気になってきました。それからいろいろあって大学院へ戻り、さまざまなご縁をいただきながら現在に至ります。

◆ 研究分野

社会教育学（主に地域博物館論）、環境教育学

◆ 関心のあるキーワード

総合的な学習（探究）の時間、学社連携/融合、学校博物館活動、生物多様性教育、市民科学

◆ 研究テーマ

「よい探究とは何か」という問いを軸に事例収集を行いながら、持続的に取り組みが発展している事例等に共通して見られる構造（人やモノ、それらの関係性）を明らかにすることを目指しています。

現在取り組んでいる主なテーマは次の通りです。

- ・戦前/戦後の学校における探究的教育実践の掘り起こし
- ・学校の探究的実践の成果物を活用した学社連携の推進
- ・地域自然博物館を拠点とした住民（児童生徒を含む）の探究的な学びのあり方

◆ ゼミの方針

週1回を基本に、主に「総合的な学習（探究）の時間」や「学校と社会教育施設の連携」に関わる領域について、概ね次の①～③の流れを考えています。とりあえず、まずはお話ししましょう。

- ① 既往研究や具体例の収集と整理、それらの批判的検討
- ② ①を踏まえた新しい単元案・授業案・評価方法の設計
- ③ ②の実習による検証

パウロ・フレイレ著『被抑圧者の教育学』の中に、“生徒であると同時に教師であるような生徒と、教師であると同時に生徒であるような教師”という言葉があります。1人の研究テーマは、ゼミ、ひいてはKSMの共通課題であるとし、課題を前にしてお互いを相対化しながら高め合う場をつくりたいと考えています。各自が主体的に調べ、考え、発信し、応答を受けて軌道修正できる、常に訂正可能性に開かれたゼミ運営にぜひご協力ください。